

銀賞

一人前の保全マンとして

愛三工業株式会社 安城工場

斉藤 拓也

私は配属 6 年目の保全マンです。配属後は日々新しいことを覚えなければならぬのでとても大変でしたが、同時に自分の知識で故障を見つけ出し修理をすることにやりがいを感じていました。

配属から 5 年ほどたったある日、組付工程の班長から「搬送コンベアが回らなくなったので、見てほしい」と連絡が入りました。すぐ現場に向かい調査をしたところ、モータが故障しているため回転しないことがわかりました。私はモータの交換作業をし、30 分ほどで生産を再開することができました。1 人で作業を完結できたことから「やっと自分も 1 人前になってきたかな？」と考えながら保全詰所に戻りました。職場に戻り、上司にモータが悪くて交換したことを報告しました。すると上司はしばらく黙った後「私たちは部品交換マンじゃないよ？」と言いました。私は「故障を直すだけでなく、再発防止をしっかりしなさい」という意味かなと思い「すみません、わかりました」と返事をしました。

それから 1 年の月日が流れ私が配属 6 年目のことです。本州全土に大規模な被害をもたらした台風 19 号が発生し長野県千曲川が氾濫、弊社の取引先の工場が浸水被害を受けました。翌日私が出勤すると、上司から「明日から長野県に行ってくれないか？」と言われました。私は普段では経験できないことができる機会と思い、復旧支援の協力を快諾しました。現地へ行き、初めて見る水害の恐ろしさに言葉を失いました。設備の現状調査をしたところ制御盤や、モータ類、空圧機器等、全てが水没した状態でした。特にモータに関しては、コイルの絶縁不良、ベアリング内への泥水侵入による固着、まともに動くものは 1 つもありませんでした。「とりあえずモータからやろうか」とベテラン保全マンが作業に取り掛かりました。私は少し戸惑いながら、見よう見まねで作業に取り掛かりました。モータの分解整備などしたことがなかったからです。私が普段担当している職場は、長時間停止故障が発生しないように充実した予備品管理をしています。そのため、モータの故障も予備品との交換で済んでしまうことが多いのです。ベテラン保全マンに教えてもらいながら、モータを分解し、

コイルを洗淨・乾燥させ、ベアリングの交換作業をしました。「最近の若い子はこんな作業したことないでしょ？」と言われました。「ばらして修理したことはないです」と苦笑いで答えました。「昔は予備品がなかったから、皆こんな風に整備してたんだけどね。最近は何でも部品交換で終わってしまうから」その言葉に私はハッとしました。あの時上司に言われたことはこういうことだったのかもしれない。私が捨ててしまったモータも何が悪かったか調べて処置してやれば再度使えていたのかも知れない。何が悪かったかも考えずに、交換することで満足していた私は自分の不甲斐なさにとっても悔しい気持ちになりました。同時に今までやってこなかった作業を沢山覚えてやろうと熱い気持ちも沸いてきました。それから約一か月の復旧作業で普段分解しないような部品を分解・整備しベテラン保全マンから原理・原則に基づきさまざまなことを教えて頂き大変勉強になりました。

予備品を準備し効率的な保全作業は、お客様である製造部署が安全に、安心して良品のみを生産するためには確かに大切です。しかし、今回の貴重な体験で部品交換マンから一人前の保全マンへと成長の機会を与えてくれる基になった、台風 19 号の災害の大規模化は、効率を求めるあまり物に溢れ、CO2 を垂れ流し、環境悪化させた結果でもあります。

今後私は、今回ベテラン保全マンから伝承された知識や技能で「再利用できる部品は自分で蘇らせるんだ」と環境にも安全・安心な保全業務を自職場で遂行しながら、後輩たちにも伝えて行きます。部品交換マンじゃなく、一人前の保全マンとして。